

村田大使挨拶 ロイフヴオリ花見祭り（5月19日（日））

ご来場の皆様、こんにちは。

先月16日に駐フィンランド日本国大使として着任しました村田隆です。今年、ロイフヴオリ花見祭りの開催を心よりお慶び申し上げます。桜の苗木を植えるイニシアティブを取られた富田東京館オーナー、そして、ロイフヴオリ協会のオットー・ヴィレ・ミッケラ氏、トロイ・コルユスロンミ氏をはじめ、御支援下さった多数の協力団体の方々の御尽力に深く感謝申し上げます。

このロイフヴオリ花見祭りの発案者は、当地で日本食と日本の食文化の普及に努めておられる東京館の富田オーナーと伺いました。2006年当時、富田オーナーは、規模は小さくとも、当地在住の日本人やフィンランド人も一緒に花見を楽しめるようにしたいとの思いを胸に、ヘルシンキ市当局に掛け合い、当地在住の日本人等から募金を募って、オランダから桜の苗木を購入されました。今では2万人以上の来客で賑わうフィンランド最大規模の花見の名所です。

ロイフヴオリ花見祭りは、フィンランドと日本の友好関係を促進させる素晴らしい取組であり、富田オーナーのイニシアティブと、それを支えて下さった関係者の方々のご尽力に改めて深い敬意と心からの感謝の意を表したいと思えます。

今年はフィンランドと日本の外交関係樹立100周年です。100周年を祝う記念行事は今年に入ってから既に数多く開催されています。今週はヘルシンキ大学でのコンサートや学術セミナー、国立博物館でのフィンランド日本友好協会主催の催し、そして、昨日（18日）は御神輿が市内を練り歩きました。また、本日の花見祭りのプログラムでも紹介されている、当地桜の女王のヴェンラ・アイラスマキさんとロイフヴオリ協会の皆様が先月12日に訪日され、日本人達との交流を深められたことも100周年に花を添えていただく大変意義深いものでした。

100年にわたる両国の友好関係の礎となっているのは、様々な分野における人と人とのつながりです。このつながりはもちろん政府間だけではなく、先にご紹介した大学、当地友好団体、そして、本日の花見祭りのような草の根レベルの継続的な交流が大きな支えとなっています。

日本大使館としても、100年にわたって築き上げられてきた両国間の確固たる信頼関係をさらに深めながら、両国の関係を、幅広い分野で相互利益につながるようにさらに発展させていきたいと思っています。

本日の花見祭りをご来場の皆様とともに楽しみながら、新たな100年に向けて、両国民がお互いに大輪の花を咲かせることを願いたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(了)